



交流の深さを重視した 姉妹校間の相互ホームステイを実施

板橋有徳高等学校(東京・都立)



多彩な国際理解体験を行うなか 姉妹校交流もスタート

大学進学から就職まで幅広い進路希望の生徒が学ぶ板橋有徳高等学校。学校の特色として国際理解教育の充実を掲げており、国内外で英語コミュニケーションや異文化について体験的に学ぶ機会の充実を図ってきた。さらに2015年度、台湾の台北市立成淵(チェンユアン)高級中学校と姉妹校提携を締結。17年度から、希望生徒を募って互いの国を訪問する学校間交流を始めた。1月に台湾の生徒が同校で学校生活を体験するとともに、同校生徒の家庭に2泊ホームステイ。3月に同校生徒が台湾を訪れ、同様の交流を行っている。

姉妹校交流(台湾訪問)の概要

ねらい	(1)自校の教育活動を振り返り、誇りをもつ (2)英語力の向上 (3)相互の文化理解を深める (4)継続的な交流を通して、国際理解を深める
訪問先	台湾(台北)
対象/定員	1・2年生/10~20人程度
時期/期間	3月/3泊4日
主なプログラム	姉妹校訪問、市内観光、ホームステイ
事前学習	台湾の文化についての学習や中国出身生徒による中国語講座など全6回の講座、パディとなる生徒との情報交換
事後学習	感想文提出
生徒負担費用	約7万円
交流開始	2017年度



>> 姉妹校提携

過去の交流を土台に関係構築

姉妹校提携の相手は、台湾修学旅行実施の際に交流したことのある学校だ。そうした関係性をベースにしたので、お互いの学校を行き来するという定期的な交流への発展も、比較的スムーズだったと思われる。同校では昨年度、このプログラムを使って9人が台湾を訪問。台湾からの受け入れも行うことで、台湾を訪問しない生徒も国際交流の機会をもつことができている。



>> 相互ホームステイ

より親密な交流が可能に

姉妹校交流に参加する生徒には、相手校訪問時に学校や家庭と一緒に過ごすパディを設定。パディとは対面前からインターネットを通じて情報交換し、受け入れ時と訪問時の2回対面する。それによって、各3日間という短期間の交流でも、相手国・人を深く理解し、親密な関係に。昨年度は同校生徒が台湾を訪問、パディと抱き合い涙を流し別れる姿もあったという。



>> 生徒の意識

自主的に海外に行く動きも

全員を対象として、1学年では国内語学研修施設での研修、2学年では海外修学旅行を実施。JICAや国際NGOを招いた学習とも絡め、国際社会に対する関心や英語コミュニケーション力の底上げを図っている。そうした経験が、希望者対象の姉妹校交流への参加や、都が主催する長期海外研修への挑戦、個人的な留学など、生徒が自主的に海外に行くという意欲につながっているようだ。

先生からひと言 /

最初の一步を踏み出す後押しに

本校には温和で大人しい生徒が多く、海外に対する関心ももともと高いわけではありません。そんな生徒たちに、学校が海外交流の機会を設定し最初の一步を支援することも必要でしょう。

台湾の姉妹校の生徒は勉強や進学に対する意識が高く、海外交流にも積極的です。訪問した本校生徒は、自分の生ぬるさに気づき「もっと

勉強しよう」と思ったり、将来の活動の場を海外も含めて考えるようになったり、それぞれ刺激を受けて帰ってきます。

私たちの大きな願いは、生徒たちが生きる力を身に付けること。様々な経験から成長のきっかけを掴み、広い視野と主体性をもって生きていってほしいですね。(成田由美先生)

参加費以外の学校負担費用



約20万円

※引率教員の旅費等。
受け入れ時の雑費含む(都費より)



総務部 国際交流担当



近畿日本ツーリスト